



L'automne est le printemps de l'hiver
photo by Saori

Français 突撃インタビュー

今月のお客さま

マルク・ジヌさん

アットホームなサロンで学ぶ フランス語会話

今月は、東京の阿佐ヶ谷、表参道、自由が丘に教室を持つフランス語会話学校「école Sympa (エコールサンパ)」の創設者の一人であるマルク・ジヌさんにお話を伺いました。1994年に誕生して以来、30年という長い歴史を持つこの学校は、生徒さんが心からリラックスして、生きたフランス語を楽しく学べる場所を提供し続けています。この秋、フランス語の勉強を始めてみたい方、再開したいと思っている方は必読です。



囲碁がきっかけで日本へ

◆école Sympaの特徴はどんなところですか？

各教室にあるサロンスペースが自慢です。このサロンは、いわば学校の「心」のような存在。生徒さんが好きなだけ、家にいるようにくつろいで過ごせる大切な場所なんです。授業後に1時間もおしゃべりしていく方もいるんですよ。ここでは、先生やスタッフ、そして生徒さんが、お茶やコーヒーを片手に、フランスや旅先での思い出話を花を咲かせています。

◆école Sympaはどのようにして生まれたのですか？

ソウルで出会ったフランス人のパスカル・コンベルシと一緒に学校を作りました。私はベルギー出身で、囲碁の国内チャンピオンだったんです。1988年と1991年にアマチュア世界囲碁選手権に参加するため来日し、この国にすっかり魅了されて住むことになり、フランス語を教え始めました。自由にフランス語を教えたいという同じ夢を持っていたパスカルとの出会いが、école Sympaの誕生につながったんです。

◆開校の準備は大変でしたか？

物件探しは一筋縄ではいきませんでした。30年前は「外国人だから」という理由で、最初から断る不動産会社もあったんです。でも、日本人の友人が助けてくれて、新高円寺の近くに最初の2DKのアパートを借りることができました。生徒さんが増えてからは、阿佐ヶ谷の一軒家に引っ越し、2000年には自由が丘に2校目の学校をオープン。その後、表参道では(場所を移すことにはなりまし

たが)、自宅のように温かい場所という私たちの理想にぴったりの庭付きの一軒家を見つけられました。

古雑誌が魔法の教材に

◆設立当初は、ご自身で教材を作っていたそうですね。

はい。もちろん文法をしっかりと教えることもできましたが、私たちは最初から、教えることの楽しさと情熱をベースにした、生き生きとした授業を大切にしていました。ある日、パスカルが学校の近くの歩道で、紐でくくられた古雑誌を見つけたんです。そこから写真を切り抜き、厚紙に貼って、テーマ別の写真コレクションを作りました。これが、遊び心いっぱいの教材として大活躍してくれました。この手作り教材が授業をより自由で生き生きとしたものにしてくれました。

そして、20年以上の経験を経て、私たちは独自の公式教材「C'est Sympa 1~9」を作り、さらに充実させました。これは、DEL F (デルフ・フランス語学力試験)のA1からB2までのステップを、日本の生徒さんのペースに合わせてサポートするために作られたものです。今は、この教材が私たちのレッスンの中心になっています。

◆良いレッスンとはどんなものなのでしょうか？

学校を始めた頃、パスカルと私にとっての良い授業とは、生徒さん同士が楽しそうにおしゃべりしたり、笑い合い、笑顔で帰っていくことでした。この考え方は今も変わりません。少人数で、和やかでリラックスした雰囲気。今は、この温かい雰囲気に加えて、しっかりとした指導法を取り入れ

ています。先生は「上から教える」のではなく、生徒さんにそっと「寄り添い、導く」存在なんですよ。

◆先生は何人くらいいるのでしょうか？

今は様々な経験を持つ12人の先生がいます。もちろん、これまでのキャリアや経験も大切ですが、私たちが一番大切にしているのは、生徒さんに優しく寄り添い、常に自分自身を高めようとする、情熱を持った先生であることです。

◆これまでに大変なことはありましたか？

30年間の大きな課題のひとつは、私たちの個性である「Sympaらしさ」を失わずに成長していくことでした。プロフェッショナルでありつつ、自然体な雰囲気は守る。授業を体系化しつつも、先生方が自分らしさを自由に表現できる余地を残すこと。これが私たちのチャレンジでしたね。

◆これからやってみたいことを聞かせてください

フランス語を学べる場所が増えている中で、私たちの最大の目標は、一人ひとりの生徒さんがオリジナルで豊かな語学体験ができるよう、質の高い、温かいサービスを提供することです。これからも、集中講座やイベント、様々なアクティビティを通じて、生徒さんの成長をしっかり応援していきます！

Instagram @ecolesympa_officiel

イベント 一日集中講座「フランス語マラソン」

開催日時: 11月3日(月・祝日)

10:15-17:45 (6時間レッスン)

場所: 阿佐ヶ谷校、表参道校、自由ヶ丘校、オンライン

毎週土曜日あさ9時30分から、テレビ朝日で放送。tv asahi



食材ひとつに、多彩なドラマ。

毎週土曜日に放送中の「食彩の王国」は、身近な「食材」たちが主役。さまざまな食材が織りなす食文化の歴史や産地の風土…。そこに流れる時間をひも解くことで、人と食材のかかわりを探っていきます。

食彩の王国



語り 客師丸ひろ子

番組ホームページ www.tv-asahi.co.jp/syokusai

制作 tv asahi テレビマニオン ViViA) 企画協力 ビデオプロモーション 提供 TOKYO GAS



とびこめ! ミュゼのとびら

今更聞けないフレンチアート

光と静寂を求めて
ジヴェルニーのモネの家

ノルマンディ地方の小さな村、ジヴェルニー。パリから電車で約1時間の場所にあるモネの家と庭園(Maison et jardins de Claude-Monet)は、モネが生涯愛したアトリエ兼住居です。1883年、すでに印象派の中心的画家として、成功し始めていたモネは、家族と一緒にこの村に移り住みました。

産業革命の真っ只中のパリは、人口も増え、騒音や鉄道の煙に象徴される近代都市の様相を強めつつあり、多くの印象派の画家たちは、明るい陽光と静けさを求め移動しました。モネも例外ではなく、彼が求めたのは、静けさと澄んだ光、そして自然と共に生きる生活でした。農家

Maison et jardins de Claude-Monet

モネの家と庭園
ジヴェルニー

風の古い家を整え、自ら庭を設計し、池や花々を「生きたアトリエ」として育てあげます。ここで彼は約40年を過ごし、睡蓮をはじめとする数々の傑作を生み出しました。

モネの家と庭園は、「モネの家」「クロ・ノルマン(Clos normand/ノルマンディ風の囲い庭)」「水の庭(Jardin d'eau)」の3つの要素で構成されています。

「水の庭」には、セーヌの支流エプト川を引き込むという大規模な工事を施し、日本風の太鼓橋を架け、柳、藤棚なども配置。特に睡蓮にはこだわり、様々な種類を集め、連作を描くために睡蓮が動かないよう配置にもこだわって植えたと言われています。そして、時間を変え季節を変え、何度も何度も描き、移りゆく光や空気を捉えたのです。

モネにとって、芸術と自然は、生活そのもの

で、この庭は、彼自身が構想した「芸術作品」でもあり、後年の大作《睡蓮》連作へと至る原点となりました。

これからは秋の花で満たされます。9月はダリアとナススタチウム。10月はルドベキア、クフェア、ユリオプスなど。しだれ柳は黄橙色に色づき、モミジバフワは燃えるような赤に染まります。

庭園の開園期間：4月1日～11月1日

writer 妹尾優子

仏語教師の傍、仏文学朗読ラジオ「Lecture de l'après-midi」の構成とナレーションを担当。美術史 & 日本史ラブ。日仏の文学からアートまで深掘りする日々。

HP <https://note.com/tabichajikan/m/md750819c9bc7>

仏人添乗員リラの

日本リラ散歩

外国での診療

海外生活の大変なところは、やはり医療機関での診療。現地の言葉が話せても、普段聞きなれない病気名や医療関係の専門用語が出てきたり、治療に対するアプローチや先生と患者の接し方も自分の国と違って戸惑うことが多い。

使い始めた
便利な歯ブラシ

10年ぐらい前に東京に留学していた時、人生で初めて婦人科に行って内診を受けた。もうある程度日本語はできていたが、もちろん今よりまだ苦労していた時期。フランスでの経験もなかったのでもともと何をされるかも分からないし、日本語と英語が混ざった説明で分からず、不安しかなかった。しかも日本の婦人科では、診察台がカーテンで仕切られていて、先生が何をやっているのかが見えない。自分で経験したことがないけどフランスも含め海外はカーテンがないみたい。その後、会社の健康診断で婦人科の内診を受ける機会が数回あったが、あのカーテンに対する気持ちは未だに複雑だ。お互いの表情が見られないし、こちらからも話しかけづらい。周りのフランス人の友達と話してもみんなあのカーテンを嫌がっているけど、日本でも今はカーテンを使わない、あるいはなくしているところもあるようだ。

また最近、歯に問題が出てきて新しい歯科医院に通い始めた。婦人科の内診と同じく、歯医者でも今どういう状況になっているか、何をさ

れているかが分からないまま治療されるのがいやで、ちゃんとコミュニケーションが取れるところを探していた。見つけた歯科医院は今のところ丁寧で、歯医者に対する恐怖心は少し軽減された。この前歯の治療をしてもらったが、まずふかふかの椅子を倒し、目にタオルをかけてもらって、首にもタオルをセット。ここまでは美容室で髪の毛を洗ってもらう時と同じ体勢。フランスは顔にタオルをかぶせてもらったことがないね。対応してくれたスタッフも優しく、なんだかりラックスできた。まだまだ治療が続くけど、医者選びは母国でも外国でも大変なので、ひとまず安心だ。



writer リラ

東京で翻訳者としても活躍する30歳のフランス人女子。持続可能な社会の実現に向けての活動もする。趣味は編み物とベランダの植物の世話。

トモクンの

アレコレ、パリコレ、ナンゾコレ〜

夏の風物詩となりつつある
パリのミストシャワー・サービス

ヨーロッパ大陸に大熱波がやって来て、フランスだけでも約2万人が亡くなったともいわれた2003年の夏。僕は運悪くずっとパリにいて、我慢に我慢を重ねました。1週間以上、毎日39℃の日が続き、しかも多湿の上に無風。フランスはエアコンの装備がない家がほとんどで、我が家も然り。部屋の中だけで汗が流れ出てきます。窓を開けると暑いので締め切り、日光を遮断するためにガラス部分を黒い布で覆いました。暑くて寝られないし、居ても立っても居られない。人間の限界を見た気がします。以降、夏をいかに涼しく過ごすかという工夫をしはじめ、その後はずいぶんと進歩しました。ただし、エアコンの普及率は相変わらず低い。あくまでも、お金のかからない方法を

編み出すことが最優先、というのがパリジャン・パリジェンヌ流。

その大きなヒントとなったのがパリ・プラージュだったはず。シャトレからルーヴル・リヴォリにかけてのセーヌ河岸に砂場やバーがあり、バカンス気分が味わえる、レクリエーション施設です。もちろん無料。その中には、飲料水配給コーナーやミストシャワーも設けられています。

それ以降、様々な公園や広場にミストシャワーが作られるようになったのです。2020年以降、その数は175ヶ所にのぼります。皆さん、涼をとることの大切さが身に染みてわかるようになったのでしょうか。いつしか、通りにも設置されるようになりました。

プチ熱波がやって来た今年7月初旬のある日、いつものようにアリーグル市場&蚤の市へ行こうと思ったら、屋根付きの市場の前の道にミストシャワーが設置されていることに気がきました。2025年には24ヶ所が新設されたそうで、その中のひとつだったよう。全身びしょりにはなりますが、フランスなのですぐに乾きます。

湿度が低い国だからこそ、広く普及した施設なのかもしれません。暑い時期にパリにやってくる人があったら、ぜひ体験してみてください。



writer トモクン

トモクンという名の45歳。在仏27年。ファッションジャーナリスト(業歴17年)は仮の姿で、本当はただの廃品回収業(業歴5年)。詳しくはブログ『友くんのパリ蚤の市散歩』にて。

blog 友くんのパリ蚤の市散歩
<http://tomos.exblog.jp>





第18回

恐怖！虫襲来にターミネーター現る！

二 ユーヨーク2回目の夏、蒙古襲来ならぬ、蒙虫襲来じゃー！見たことのない虫が台所付近に大量発生しました。アリよりも細長くて、2、3ミリの羽のない虫。こちらパリでは南京虫が発生して最初に住んだアパートマンを引っ越した経験がありますから。人間が虫に対して無力であることは痛いほど知っております。あの時は駆除業者に7万円取られたのに、結局虫はステイ。退去したのですが、今回はどうなることか。ニューヨーク価格が怖くて震える～。虫に最初に気づいたのはお嬢でした。学校に持って行った保冷ランチバックに虫が3匹いたと。プエルトリコ人の屈強なお友達が退治してくれたものの、大騒ぎしたらしい。その数日前にセントラルパークに持って行ったから、くっついちゃったのかな？なんて呑気な考察をしていた、数日後。米を研いでいたら、数匹の虫が研ぎ汁でプカプカスイミング、真夏のジャンボリー！ネットで調べると、「米にいた虫は数匹くらいなら食べて大丈夫」ゴマみたいだから平気ってわけにはいかないんですけど。とりあえず米びつに入っていたお米は廃棄。その後も、食器棚のお皿の上を歩いていたり、コップの水に浮いていたり、頻繁に出くわすようになり、スーパーで買ったアリの巣コロリ的な薬剤も置いて寝え知らずの元気いっぱい、活動範囲を広げてらっしゃる。

これは素人が敵う相手ではない、神風を呼ぶ時

夏休みに行ったマルタ共和国▼



▲気持ち悪さが少ない写真。反対側は大変なことに。

が来た。マンションの管理人さんに写真付きで助けを求めてみたところ、すぐに「ターミネーターを行かせる」ターミネーター!? 自分の人生にターミネーターが関わるなんて……アメリカに来て良かったかも……。

3日後くらいにやってきたターミネーターは虫を見るなり「コイツらはアメリカ国外から来ている。グレインビートル(grain beetle)だ。」名前カッコいい！ 複数いるからグレインビートルズ！

ターミネーターは息をするようにビシビシ指で退治しながら「巣があるはずだから探す」と、台所付近のいろんなものを取り上げては下ろし、を繰り返して「見つけた！」と取り上げたのは棚の奥にあったチャイの素。ニューヨークのインド人街、マレーヒルで買った、インスタントチャイの粉でした。未開封だったはずなのに、袋の中でいっぱいのグレインビートルがお祭り状態。棚の中からいろんなところへ新天地を求め、探検していたところに出くわしていたようです。グレインビートルは、小麦粉とか米が好きと言うことでしたが、うちでは子ども達のお菓子ストックにも住み込んでいた。全部捨てようとする、と「そこまでする必要はない。俺なら食べる」って言うんだけど、さっきそこらじゅうに何やら薬品散布してたような……。『ターミネーターだから殺虫剤くらい食べられるよね』と言ったら若旦那が「エクスターミネーター（根絶させる人、駆除させる）だよ。ターミネーター（暗殺者）じゃないよ」シュワじゃなかったのか。なんかガッカリ。

その後も、ちらほらグレインビートルが我が家を散歩しているのを目撃。虫ll be back?? ちなみに料金は無料。死ぬほど高いマンションの賃料に含まれている模様。いいんだか悪いんだか。

writer 吉野亜衣子

ラジオ局を辞め、夫の留学についてパリへ。帰国後、日仏文化交流のための NOISSETTE を設立。2022 年で設立10周年。2024年春よりNY在住。

HP <https://note.com/noisettepress>

podcast <https://podcasters.spotify.com/pod/show/cafenoisette>

編集後記

巻頭フォトの1行キャプションは編集部で毎月ひねり出しています。今回はロートレックさんの名言を拝借。さらっとした一言ですが、実は味わい深いもののように。意味はご自分で調べてみてください！(編集Y)

編集後記

19世紀ヨーロッパなどでは、日焼けした肌は労働者のしるしとされていた。20世紀に入りバカンスが大衆化していくと「余暇を楽しめる豊かさ」というある種のステータスに変わったとか。21世紀は皮膚癌に注意ですね。(AD. F)

パリに暮らす猫パリーちゃん・リリちゃんと
ゴキゲン指揮者キョーリのほのぼの生活

パリーちゃん通信



バカンス万歳!

バ カンス天国フランスの夏。我が家も毎年8月は仏全土にあるバカンス専用の家を借ります。今年はブルターニュ。もちろんリリちゃんも一緒。生後半年から国内旅行には必ず一緒に行くので慣れたもの。今や立派なバカンス猫です(笑)。1ヶ月のバカンスでは特に何をするわけでもなく、マルシェに行き新鮮なご当地食材を料理したり、海で泳いで浜辺で昼寝、夕方にはカフェのテラスでのんびりアペロ。こんな日々を過ごしたら仕事復帰が辛い?いえ、逆にバカンス後は完全リフレッシュして仕事のモチベが沸々と湧き上がってくるのです!人生に必要な余裕はバカンスにあり。Vive les Vacances! (バカンス万歳!)



バカンス中はママの鞆がリリちゃんベッドになります。



ブルターニュの友人宅でお庭ランチ。

writer 押田杏里

日仏混合アマチュア合唱団「バリア・ブリコ合唱団」を主宰する指揮者。パリで猫のリリちゃんと旦那様と「今を生きる」をモットーに暮らしています。

Instagram @abricotp

本当に話せる力を
ここで



フランス語会話学校
エコールサンパ

03-3337-7933 / info@ecolesympa.com

表参道・阿佐ヶ谷・自由ヶ丘・オンライン

スマホも大画面テレビもアプリをダウンロードするだけ
フランスで日本のテレビ

地上 BS 50ch
1週間無料体験
アプリをダウンロードして簡単登録で即時視聴

- 地上・BS・CS50局ライブTV
- 過去4週間番組の見直し視聴
- 週間ランキングVOD500本
- 過去4週間番組の予約録画可
- スマホからテレビ画面に転送可
- TV端末契約でスマホ視聴無料

年間契約 TVDongle 無料

モバイル USD 199.9/年ー テレビ+モバイル USD 239.9/年ー 月当たりUSD 16.6ー
サポートメール [日本人受付] admin@kaitekitv.com サポートページ <https://kaitekitv-support.com>

